令和８年度

茨城県優良図書紹介【小学校低学年向け】



『どろぼうジャンボリ』

阿部結（ほるぷ出版）

ゴミばこをあたまにかぶったどろぼうのジャンボリがぬすむのは、すてられたお手紙。でも、町長が「お手紙きんし令」を出してしまいます。ジャンボリが町を出ようとしたとき、風で手紙が町中へ！本当の気もちがきせきをおこすあたたかいお話。



『あの、ここどうぞ。』

くすのきしげのり/作　こがめたく/絵（偕成社）

電車の中で「せきをゆずりたいな」と思っても、はずかしくて勇気が出ない女の子。でも、まわりの大人のやさしいすがたを見て、心が動きます。だれかに優しくしたくなる、心があたたまる絵本です。



『まこちゃんとコトバロボ』

村上しいこ/作　たんじあきこ/絵（佼成出版社）

国語のドリルもしゅくだいも大きらいなまこちゃん。おばあちゃんがかってくれたコトバロボに丸なげし、ぜんぶやってもらうことに。さいしょはらくでいいやと思っていましたが・・・。自分がにげずにやらなければならないこと、本とうにひつようなことは何かを教えてくれる本です。



『まてまて、ごめん。』

渡辺朋/作　早川世詩男/絵（童心社）

友だちの絵をやぶいてしまったそうた。「ごめん」と言えずに手紙を書いたら、なんと「ごめん。」の文字が逃げ出して、町中が大さわぎに！言葉が動き出すおもしろいお話です。すなおにあやまる大切さが楽しくよく分かります



『まほうのはみがきこ』

志津栄子/作　まつながもえ/絵（金の星社）

まほうのはみがきこをつかったら、さあたいへん！心の中の本音がかってに口から飛び出しちゃう！？いつもがまんして「いい子」にしているあかりちゃんが、学校で大ピンチをむかえながら、本当の気持ちを見つけるどきどきわくわくのおはなし。



『おかねってなんだろう』

ほそかわてんてん(講談社)

主人公のちいちゃんが、お母さんの代わりにお弁当を買いに行くお話。お金を落とさないかドキドキする気持ちを考えながら、初めてのお金のおべんきょうをスタートしてみよう！



『となりのせきのおともだち』

はしもとえつよ（国土社）

ののちゃんのとなりのせきのちこちゃんは、話しかけてもすぐに下をむいてしまいます。ののちゃんは、ちこちゃんともっとなかよくなりたいと思い、いろいろと声をかけますが、なかなかうまくいきません。どうしたら自分とちがう人と仲良くなれるのかな？そのヒントを教えてくれる本です。



『おふろがしゃべった!?　おなやみそうだん、ひきうけます』

麦野圭/作　おかもと香織/絵（岩崎書店）

友だちのあかりちゃんとなかなおりしたいゆうくん。おふろのおいだきボタンをおすと話しだす「てつおさん」になやみをそうだんし、かいけつしようとします。じぶんの思いをゆうきをだして、すなおにつたえることのたいせつさをおしえてくれる本です。



『ちょっとだけともだち』

なかがわちひろ（のら書店）

友だちづくりがにがてなぼく。おじいちゃんのかこの話やヒロ君とのこうりゅうをとおして気づいた、ぼくにとってのともだちとは？



『本がきらい本がすき』

マリアホ・イルストゥラホ作/絵　小川紗良/訳（アノニマ・スタジオ）

やりたいことがたくさんできる夏休み。でも先生は、わたしがいやだと思っている本をよみなさいと言っています。しぶしぶ手にした一さつの本。うわあ！なにこれ？女の子はいつのまにか本の世界に引きこまれていきます。



『きこえなくたって　みみのきこえないプロやきゅうせんしゅのおはなし』

おがわひろき/作　いしいつとむ/絵（イマジネイション・プラス）

耳のしょうがいをもちながらも、プロやきゅうせんしゅというゆめをかなえた石井さん。自分のよわみと思っているぶぶんも、かんきょうや見方をかえればつよみにかえることができる。自分らしいゆめをえがき、前にすすむゆう気をあたえてくれる本です。



『「あな」の本　地下から宇宙まで……どこもかしこもあなだらけ!』

ノラ・ニッカム/作　ロバート・メガンク/絵　八木恭子/訳（フレーベル館）

「あな」ってなんだろう？という疑問から始まり、身の周りに何気なくある「あな」の理由や役割、歴史について様々な分野と関連付けて説明されている本であり、広くて深い「あな」の世界を知ることができる。